老いへのまなざし

Adrienne Rich と Age Studies

白井那奈

はじめに

アドリエンヌ・リッチ（Adrienne Rich , 1929–2012）は老いに対するまなざしを傍観者的視点から当事者的視点へと連続的に変化させてきた詩人である。彼女は歴史上見過ごされてきた女性同士の繋がりを「レズビアン連続体」として指摘したが、この異なる個人を繋ぐ〈連続性〉の考えを〈老い〉にも援用して中期から後期の作品である "Merced" (1972), "Contradictions: Tracking Poems" (1983–1985), "Negotiations" (1986) を分析し、リッチ作品がエイジ・スタディーズに貢献する可能性を検討した。

Age studies の発展

エイジ・スタディーズは〈老い〉が社会的・文化的な構築物であることを指摘し、人文学の観点で学際的に老いを研究してきた。1969 年の論文で Robert Butler はある特定の年齢グループ、主にシニアに対する偏見や差別を「エイジズム」と呼び (243)、のちに Erdman Palmore はエイジズムについて身体的・能力的に減退する老いというネガティブなイメージに基づく偏見もあれば、分別や親切さを求めるといったポジティブな偏見もあると指摘した（20, 34）。Simone de Beauvoir は *La Vieillesse* (1970) において人文学的観点から老人の「他者性」について論じ、エイジ・スタディーズに大きな影響を与えている。また 1985 年アメリカのフェミニスト集会では初めて、Barbara Macdonald が〈フェミニズム内のエイジズム〉を指摘した。このときリッチは既にエッセイ "What Does a Woman Need to Know?" (1979)などで年老いた女性が周縁化されている問題を指摘しており、老いの外部性には意識的だったことが分かる。1990 年代 Margaret Morganroth Gullette はエイジ・スタディーズを提唱し、老年期のみを対象とし老いを捉えるのではなく人生全体を通した連続的な事象として老いを捉える必要性を訴えている（110）。

Bird on the Wire: 隔てない境界線

"Merced"の前には 1968 年にリリースされた Judy Collins が歌う Leonard Cohen の曲 "Bird on the Wire" の一部がエピグラフとして置かれており、この曲の歌い出しは "Like a bird on the wire / . . . / I have tried in my way to be free" (ll. 1-3)である。電線に止まる鳥のように、曲の中の「わたし」は自由に羽ばたこうとしている。

有刺鉄線が張られた中の陰鬱、恥辱、絶望、死を "Fantasies of old age" (l. 1) が取り囲んでいるとして "Merced" は始まる。鉄線の内側と外側では "a purposeless exchange / of consciousness for the absence / of pain" (ll. 18–20) が行われており、どちらも同じような状況であることが第 1 連から分かる。第 2 連において木から木へ自由に飛び回るカケスは、止り木から羽ばたくことができても "El Capitan" (l. 31)のような到底力の及ばない存在には逆らえない。地球が作り上げた自然物に対して小さな鳥や人間は立ち向かえないが、"a world almost archaic" (l. 35)の価値観は転覆させることが可能だろう。この世界に対する詩人の怒りはその対象に向けることを超え、自身の身体を蝕み、内側に向けられ（ll. 40–3）、外に発されないために沈黙のうちに語る「死」となる。第 3 連に登場する男性たちはそれぞれ怒りを自らに向けて自殺したが、その内側に向けられた怒りがもたらした死は外側に向けたメッセージとなった。

詩人はエイジズム的な "Fantasies of old age"を語っているのではない。その幻想を抱かせる原因は "a world masculinity made / unfit for women or men" (ll. 56–7) だと訴えている。鳥にとって電線は一時的に止まるだけの自由になるためのステップ、詩人にとって鉄線は "Fantasies of old age"をもたらす世界について考え幻想から自由になるステップとなっている。

Tracking the Path: アウトサイダーからインサイダーへ

短い 29 の詩から構成される "Contradictions: Tracking Poems"で詩人は未来の自分に宛てた手紙の中に老いの幻想が崩れていくことを書き記す（ "The prime of life, old age/ aren't what they used to be; / making a good death isn't either" #6, ll. 8–10）。[1] #13 と#19 で "Trapped in one idea, you can't have your feelings" というフレーズが共通しているが、#13 で詩人は外に広がる季節に目を配っているのに対し、#19 では痛みに苦しむゆえに自己中心的になっており、"my fury" (l. 9) となるほどに身体を支配する痛みが強いことが伺える。#7 では "But I'm

already living the rest of my life / not under conditions of my choosing / wired into pain" (ll. 15–7) とあり、残りの人生では痛みさえも受け入れて過ごしていこうという諦念が感じられる。続く#8 では痛みに囚われたくないと詩人は必死に抵抗する。リッチが実際に長年患っていた関節リウマチの身体的な痛みを悪化させる原因の一つは寒さで、詩の中で寒さに言及する箇所は多くある。さらに #11, 19, 29 で痛みは寒さのほかに "the pain on the streets"からの感染が原因だとして個人的なレベルの問題と公的／社会的なレベルの問題の関連を述べる。しかし、#29 で詩人は "remember: the body's pain and the pain on the streets / are not the same"といい、個人的なレベルから公的／社会的なレベルへ問題を昇華させることを否定する。自らの身体を通して "the pain on the streets"を感じようとしていた詩人は、感情的なシンパシーではなく能力的なエンパシーを持って自分と街の人々との違いを認めて理解する。

"Negotiations"の第 4 連で詩人は "those poems and manifestos / that so enraged us" (ll. 20–1) を再読するにあたり "But damn," (l. 22) と一息つくことで怒りを顕にさせるのを一旦制止させる。それまで 6 行 4 連の安定感のある詩に緊迫した〈交渉〉を連ごとに書いてきたが、連の 4 行目真ん中で "But damn,"と吐き捨てるのである。ここでは連の区切りとは別に連の中の結びつきを断ち切ることによって逆説的に境界の曖昧さを表現し、怒りを交渉のツールとして用いている。相手も敵意は剥き出しで "I read you always, even when I hated you"と言いながら席に着いており、詩人らは怒りを抑えたというより相手に対峙することで互いの怒りを募らせながらもエンパシーを持って話し合いを進めるのだろう。このように怒りを利用した〈交渉〉によって詩人は落ち着きや分別を求めるエイジズムに抗っているのだろう。

おわりに

"Merced"に登場する "Fantasies of old age"のように傍観者的に直接〈老い〉に言及していなくとも、"Contradictions: Tracking Poems"や "Negotiations"でリッチは幻想が崩れていく過程や怒りを利用した〈交渉〉を老いを経験する当事者的な視点から書き、変遷する老いへのまなざしを示している。本発表では電線や鉄線のモチーフ、エンパセティックな他者理解、交渉の在り方などから、リッチが境界の曖昧さや老いへのまなざしを描いていたことを明らかにしようと試みた。このような手法によって、社会的に構築されてきた老いやエイジ・スタディーズに関する議論が今後も発展していくことを期待したい。

註

[1] 以下、"Contradictions: Tracking Poems"で詩人が各詩に付した番号は「#」で示す。

Works Cited

Butler, Robert N. "Age-Ism: Another Form of Bigotry." *The Gerontologist*, vol. 9, no. 4 Part 1, Oxford UP, 1969, pp. 243–46, doi:10.1093/geront/9.4_part_1.243.

Cohen, Leonard. "Bird on the Wire." *Who Knows Where The Time Goes*, sung by Judy Collins, Elektra Sound Recorders, 1968, music.apple.com/jp/album/bird-on-the-wire/217509161?i=217509875. Accessed 15 January 2022.

Gallop, Jane. *Sexuality, Disability, and Aging: Queer Temporalities of the Phallus*. Duke UP, 2019.

Gullette, Margaret Morganroth. *Aged by Culture*. U of Chicago P, 2004.

Henneberg, Sylvia. *The Creative Crone: Aging and the Poetry of May Sarton and Adrienne Rich*. U of Missouri P, 2010.

Holladay, Hilary. *The Power of Adrienne Rich: A Biography*. Nan A. Talese, 2020.

Hoogestraat, Jane. "'Unnameable by Choice': Multivalent Silences in Adrienne Rich's Time's Power." *Violence, Silence, and Anger: Women's Writing as Transgression*, edited by Deirdre Lashgari, U of Virginia P, 1995, pp. 25–37.

Palmore, Erdman. *Ageism: Negative and Positive*. The second ed, Springer Publishing Company, 1999.

Parini, Jay. "Bright Shards and Solid Pottery." *The New York Times Book Review*, no. 22 October 1989, p. 16.

Rich, Adrienne. *Collected Poems 1950–2012*. W.W. Norton, 2016.

---. *Essential Essays: Culture, Politics, and the Art of Poetry*. Edited by Sandra M. Gilbert, W.W. Norton, 2018.

Woodward, Kathleen. "Tribute to the Older Woman: Psychoanalysis, Feminism, and Ageism." *Image of Aging: Cultural Representations of Later Life*, edited by Mike Featherstone and Andrew Werrick, Routledge, 1995, pp. 79–96.

Wyatt-Brown, Anne M. "The Future of Literary Gerontology." *Handbook of the Humanities and Aging*, edited by Thomas R. Cole et al., Springer, 1992, pp. 41-61.

金澤哲「アメリカ文学における『老い』の政治学」『アメリカ文学における「老い」の政治学』松籟社、2012 年、11-27 頁。

ボーヴォワール、シモーヌ ド『老い　上下』1970 年、朝吹三吉訳、人文書院、1972 年。

リッチ、アドリエンヌ『アメリカ現代詩共同訳詩シリーズ③　アドリエンヌ・リッチ詩集』白石かずこ、渡部桃子訳、思潮社、1993 年。